

植物の機能とヒトの知恵

話題提供者 すぎもと
松本 敏男 (食農総合研究所 特任教授)

植物は、環境中の無機物・イオン（元素）、主に空気中の二酸化炭素（炭素）、土中の硝酸イオン（窒素）や硫酸イオン（硫黄）から光エネルギーを使い、自己の組織や子供（種子）に必要な炭水化物、タンパク質、脂質などの有機物を作ります。動物はその植物組織・種子を食べ、自己の体や運動のエネルギーとした後に排泄し、環境中の微生物が元の無機物に戻します（物質循環）。

農耕を始めて以来、ヒトは植物の無機物から有機物を作る能力を高める手助け、すなわち、植物が良く育つ様に肥料や灌水など様々な技術を開発・工夫し、優れた能力を持つ植物種の選抜をしてきました。近年では、味や健康に役立つ植物の機能の解析や向上を図るようになって来ています。今回は、色々な環境ストレスに対応しながら生長する植物の機能とそれを利用しているヒトの知恵（肥料の創造、栽培上の工夫、食品としての機能解明など）を紹介します。

参加無料
申込不要

日時

2017年10月18日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール1階 多目的ホール

問合せ

和歌山大学岸和田サテライト

岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

Tel & Fax : 072-433-0875

【E-mail】 kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp



南海本線「岸和田」駅下車 徒歩約10分

駐車場有（終日無料）



わだい浪切サロンとは 毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員等が、地域のみなさまに身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

今後の開催予定

回	日時	テーマ（予定）	話題提供者（敬称略）
97	11月15日（水）	人と自然が共生した地域づくり（仮）	中島 敦司 （システム工学部 教授）

※2月はお休みです。

第94回「日本庭園」のデザイン

ーその誕生と変遷」のアンケートより

- ◇ 日本にあるから日本庭園と呼ばれているわけではないということが良くわかる説明でした。一番驚いたことは、日本だ と思っていた場所がパリにある日本庭園だったことでした。そのような事もふまえ、とても興味深いお話でした。（10代・女性）
- ◇ 庭園と歴史との関係性をはじめ伺い、とても興味深く聞かせていただきました。昔の方々も庭園を観ながら癒されていたのではないのでしょうか。（40代・男性）
- ◇ 飛鳥時代に噴水があったとはおどろきでした。今の日本庭園のルーツが奈良時代にあることが良くわかりました。（40代・男性）
- ◇ 時代と共に庭園デザインが変化してきた様子に興味深かったです。飛鳥時代の石像の噴水はどうして水が出るのか知りたいです。明治時代以降の庭園について作庭者と共に詳しく知りたいです。（50代・女性）
- ◇ 庭園と建物との位置関係。本当に勉強になりました。（80代・男性）

🔊 わだい浪切サロン参加者の声

- ・ **大学の授業を体験**できたみたいでとても良かった。（10代・女性）
- ・ すごくわかりやすく、**今の自分が知りたいテーマ**だった。（30代・女性）
- ・ **質疑応答の時間**があるのが良い。（60代・男性）

和歌山大学岸和田サテライト 岸和田市港緑町 1-1 浪切ホール 2F

【Tel&Fax】072-433-0875

【URL】<http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/>

🔍 岸和田サテライト

検索 🔍

